

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-17211

(P2001-17211A)

(43)公開日 平成13年1月23日(2001.1.23)

(51)Int.Cl.

A 4 4 C 7/00

識別記号

F I

A 4 4 C 7/00

テームト(参考)

A 3 B 1 1 4

審査請求 未請求 請求項の数3 OL (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平11-195735

(22)出願日 平成11年7月9日(1999.7.9)

(71)出願人 599096639

竹原 久司

山梨県甲府市中小河原町229-3

(71)出願人 599096640

長坂 雄司

山梨県甲府市中町380-2

(72)発明者 上條 隆夫

山梨県甲府市上阿原町112-3

(72)発明者 赤池 八郎

山梨県甲府市西高橋町4-1

(74)代理人 100080654

弁理士 土橋 博司

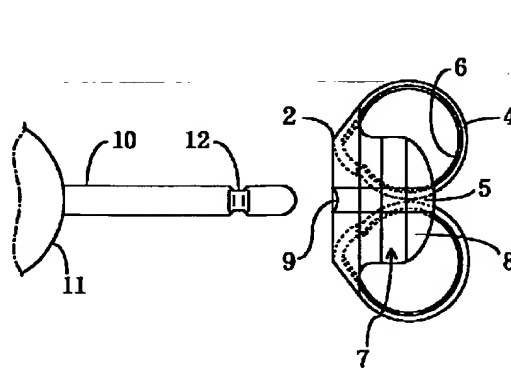
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 イヤリング用止金具

(57)【要約】

【課題】取扱いが容易で、しかもピンの抜け止め作用が顕著であり、かつ装飾性にも充分配慮したイヤリング用止金具を提供しようとするものである。

【解決手段】ピアス用ピンの挿通孔を備えた止金具本体と、止金具本体の側縁から少なくとも一対延長し、さらにその端部をカールさせた上で対向させた弾発片を有するピン挟着部とを備えたイヤリング用止金具において、各弾発片の中間でつまみ片を少なくとも一対延長することにより、一端に装飾体を取り付けたピアス用ピンを上記止金具本体の挿通孔からはめ込む際に、上記つまみ片を利用して止金具本体を持つことができるようにしたことを特徴とするイヤリング用止金具。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ピアス用ビンの挿通孔を備えた止金具本体と、止金具本体の側縁から少なくとも一対延長し、さらにその端部をカールさせた上で対向させた弾発片を有するピン挟着部とを備えたイヤリング用止金具において、各弾発片の中間でつまみ片を少なくとも一対延長することにより、一端に装飾体を取り付けたピアス用ピンを上記止金具本体の挿通孔からはめ込む際に、上記つまみ片を利用して止金具本体を持つことができるようにしたことを特徴とするイヤリング用止金具。

【請求項2】 止金具本体が、弾性材料内に一体的に保持され、つまみ片を弾性材料の外周に位置させるようにしてなる請求項1に記載のイヤリング用止金具。

【請求項3】 つまみ片が、その長さ方向に直交する方向に凹凸を形成してなる請求項1または2に記載のイヤリング用止金具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、一端に装飾部を取り付けたピンを、耳たぶの裏側で抜け止めするためのピアスイヤリングのキャッチに関するものであり、取扱いが容易で、しかもピンの抜け止め作用が顕著なイヤリング用止金具を提供しようとするものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来、ピアスイヤリング用の止金具としては、通称キャッチと呼ばれる貴金属片からなるものがよく知られている。このキャッチは、貴金属板の中央にピンを挿通する開口を形成するとともに、その側縁を裏面方向に少なくとも一対延長させて弾発片とし、さらに弾発片の延長部分の端部をカールさせて挟着部を形成するとともに、この挟着部を対向させたものであり、上記ピン挿通口から挿通されたピンをこの挟着部で挟着し、保持するようになっている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】このようなイヤリング用止金具は、コストやピンの抜け止め機能の面で非常に優れたものであるが、機能のみからなるものであるため装飾性に難点があった。さらに、コストの問題で通常小さいため、指で掴みづらい上、耳たぶのピアス用に開けた穴にくい込んでしまうという問題があった。しかも、使用を繰り返すうちに弾発片がゆがんでしまい、ピンの周溝から抜けなくなってしまうという欠点もあった。

【0004】また、上記イヤリング用止金具の使用に当たっては、イヤリング用止金具を指で持つ際に、弾発片部分が持ちやすかった。そのため弾発片部分に負荷がかかってピンが強く加圧、保持され、ピンの挿通や抜き取りに支障が生じるという欠点があった。

【0005】そこでシリコン樹脂や合成ゴムその他の弾性材料からなるイヤリング用止金具が開発されてきている。例えば、実開昭60-6417号公報には弾性材料

のみからなるピアスキャッチが、実開昭61-13615号公報には中空の球体内に弾性材料を充填してなるピアスが、実用新案登録第3045812号公報には釣り鐘状の金属カバー内に弾性材料を収納したピアス用キャッチが、実開平1-103307号公報には弾性材料のピン挿通口側端部に部分的に筒状の金属製殻体をはめ込んだ抜け止め金具を有する耳飾りがそれぞれ示されている。

【0006】しかしながら、上記シリコン樹脂や合成ゴムその他の弾性材料を用いたイヤリング用止金具は、いずれのものにおいてもピンを挟着する力が弱いためにピンが外れやすいという欠点があった。

【0007】そこでこの発明は、取扱いが容易で、しかもピンの抜け止め作用が顕著であり、かつ装飾性にも充分配慮したイヤリング用止金具を提供しようとするものである。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】すなわち、この発明のイヤリング用止金具は、ピアス用ビンの挿通孔を備えた止金具本体と、止金具本体の側縁から少なくとも一対延長し、さらにその端部をカールさせた上で対向させた弾発片を有するピン挟着部とを備えたイヤリング用止金具において、各弾発片の中間でつまみ片を少なくとも一対延長することにより、一端に装飾体を取り付けたピアス用ピンを上記止金具本体の挿通孔からはめ込む際に、上記つまみ片を利用して止金具本体を持つことができるようにしたことを特徴とするものである。

【0009】この発明のイヤリング用止金具は、上記止金具本体が、弾性材料内に一体的に保持され、つまみ片を弾性材料の外周に位置させるようにしたことをも特徴とするものである。

【0010】この発明のイヤリング用止金具は、上記つまみ片が、その長さ方向に直交する方向に凹凸を形成したことをも特徴とするものである。

【0011】この発明のイヤリング用止金具によれば、取扱いが容易で、しかもピンの抜け止め作用が顕著であり、かつ装飾性にも充分配慮したイヤリング用止金具を提供できるようになった。

## 【0012】

【発明の実施の形態】以下、図面に基づいてこの発明に係るイヤリング用止金具の実施の形態を詳細に説明する。図1はこの発明のイヤリング用止金具の第1の実施例を示す正面図、図2はその下面図、図3はその使用状態を示す側面図、図4は第2の実施例を示す正面図、図5はその透視図、図6はその使用状態を示す側面図である。

【0013】第1の実施例を示す図1ないし図3において、イヤリング用止金具1は、ピアス用ビンの挿通孔3を備えた止金具本体2と、止金具本体2の側縁から裏面に向けて少なくとも一対延長した弾発片4とを有してい

る。そしてこの弾発片4は、その端部をカールさせた上で対向させることにより、ピン挟着部5を形成している。6は上記弾発片4の長さ方向に沿って形成したガイドリブである。

【0014】この実施例においては、上記イヤリング用止金具1の各弾発片4の中間に一对のつまみ片7を延長して形成している。このつまみ片7は、上記弾発片4とほぼ同様に止金具本体2の側縁から裏面に向けて形成されており、その長さ方向に直交する方向に凹凸8を形成している。9はつまみ片7の長さ方向に沿って形成した補強リブである。

【0015】他方、一端に装飾体11を取り付け、他端に周溝12を設けたピアス用ピン10が用意される。そしてこのピアス用ピン10の先端を上記止金具本体2の挿通孔3からはめ込む際、上記つまみ片7に指をかけて止金具本体2を持つことができる。したがって上記イヤリング用止金具1の使用に当たり、イヤリング用止金具1を指で持つ際に、弾発片4部分には負荷がかかることがなく、ピアス用ピン10が強く加圧されないで無理な負荷がかかっておらず、ピアス用ピン10を挿通して弾発片4のピン挟着部5をその周溝12に係合させたり、ピアス用ピン10を抜き取る際に、何も支障が生じることがない。

【0016】また、つまみ片7には補強リブ9が形成されているので剛性が高く、つまみ片7を指で持ってもほとんど変形することがない。しかもつまみ片7には凹凸8が形成してあるので、指で持った際に滑りにくく、非常に扱いやすい。

【0017】上記においてイヤリング用止金具1としては、金や銀、プラチナ、あるいはこれらの合金等からなる貴金属素材で構成することが望ましいが、これらの貴金属素材に限られるものではない。

【0018】第2の実施例を示す図4ないし図6において、イヤリング用止金具21は、ピン挟着部23を設けた止金具本体22と、この止金具本体22を内蔵し、上記ピン挟着部23に連通するピン挿通口25を形成した弾性材料24とで構成されている。そして、一端に装飾体27を取り付けたピン26を、上記弾性材料24のピン挿通口25から先端をはめ込んだ上、止金具本体22の上記ピン挟着部23でピン26の外周に設けた周溝28部分を抜け止めするようになっている。

【0019】すなわち、上記止金具本体22はその側縁から一对の弾発片31を延長し、さらに裏面側に折り返してループ32を形成するとともに、このループ32を対向させて、弾性材料24のピン挿通口25から挿通されてくるピン26先端の周溝28部分を挟着するようになっている。33は弾発片51の長さ方向に沿って形成した凹溝状のリブである。

【0020】上記止金具本体22には、その側縁から少なくとも一对延長させて形成した上記弾発片31のほぼ

中間に、上記弾性材料24を包み込み、指がかりともなるつまみ片34が延長形成してある。もちろん、つまみ片34には補強リブ35のみならず、ローレット加工による滑り止め36が施してある。

【0021】この実施例におけるイヤリング用止金具31の使用法も、上記第1の実施例と同様である。

【0022】上記弾性材料24としては、素材の弾性度やアレルギーの面からシリコン樹脂（シリコンゴム）が望ましいが、同様の機能を備えた素材であればそれ以外の素材を使用してもよい。この弾性材料24は、少なくとも上記止金具本体22のピン挟着部23を中央に内蔵し、かつ上記一对の弾発片21が全体の周縁部分に位置するように形成されている。もちろん、弾性材料24の中心には上記ピン挟着部23に連通するピン挿通口25が形成されている。

【0023】上記イヤリング用止金具21の使用に際しては、装飾体27を一端に取り付けたピン26を、弾性材料24の中心に設けたピン挿通口25から突き刺し、ピン挟着部23の上記ピン挟着部23部分へ圧入すればよい。こうすることにより、ピン26の外周に設けた周溝28がピン挟着部23にはめ込まれ、ピン挟着部23の弾性で抜け止めされるのである。なお、ピン26はピン挟着部23の弾発力で確実に保持されるのであり、その際、弾性材料24はピン26をガイドすることはあっても、その保持にはほとんど機能していない。

【0024】この実施例においても、ピアス用ピン26の先端を上記止金具本体22の挿通孔23からはめ込む際、上記つまみ片34に指をかけて止金具本体22を持つことができる。したがって上記イヤリング用止金具21の使用に当たり、イヤリング用止金具21を指で持つ際に、つまみ片34部分には負荷がかかることがなく、ピアス用ピン26が強く加圧されないで、ピアス用ピン26の挿通や抜き取りには何も支障が生じることがない。

【0025】上記実施例において使用した弾性材料は、シリコン樹脂等の素材に香料や蓄光材料を配合することにより、心地の良い香りを発生させたり、暗い所で光を発するようにしてイヤリングをより強調し、かつ紛失しにくくしたりすることができる。

【0026】また上記各実施例におけるイヤリング用止金具1、21は、上記従来例のピアス式イヤリングと同様にして使用することができる。その場合、つまみ片34を指で持つことができるので、非常に扱いやすいイヤリング用止金具1、21を提供することが可能となった。

【0027】

【発明の効果】この発明のイヤリング用止金具によれば、取扱いが容易で、しかもピンの抜け止め作用が顕著であり、かつ装飾性にも充分配慮したイヤリング用止金具を提供できるようになった。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】この発明のイヤリング用止金具の第1の実施例を示す正面図である。

【図2】その下面図である。

【図3】その使用状態を示す側面図である。

【図4】この発明のイヤリング用止金具の第2の実施例を示す正面図である。

【図5】その透視図である。

【図6】その使用状態を示す側面図である。

## 【符号の説明】

- 1 イヤリング用止金具
- 2 止金具本体
- 3 挿通孔
- 4 弾発片
- 5 ピン挟着部
- 6 ガイドリブ
- 7 つまみ片
- 8 凹凸

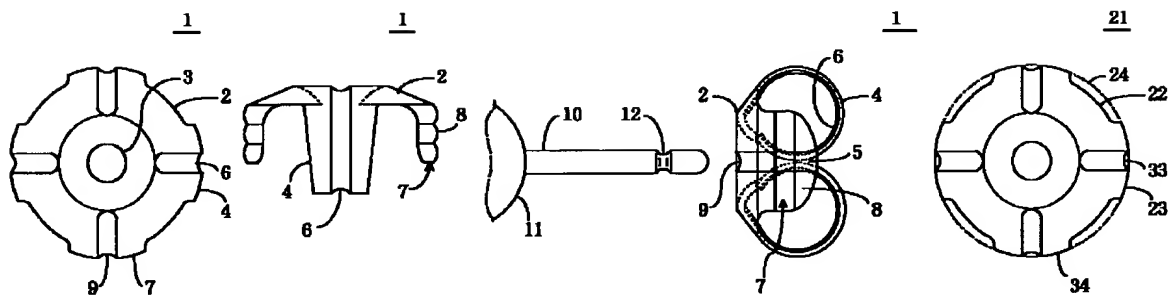
- 9 補強リブ
- 10 ヒアス用ピン
- 11 装飾体
- 12 周溝
- 21 イヤリング用止金具
- 22 止金具本体
- 23 ピン挟着部
- 24 弾性材料
- 25 ピン挿通口
- 26 ピン
- 27 装飾体
- 28 周溝
- 31 弾発片
- 32 ループ
- 33 凹溝状のリブ
- 34 つまみ片
- 35 補強リブ
- 36 滑り止め

【図1】

【図2】

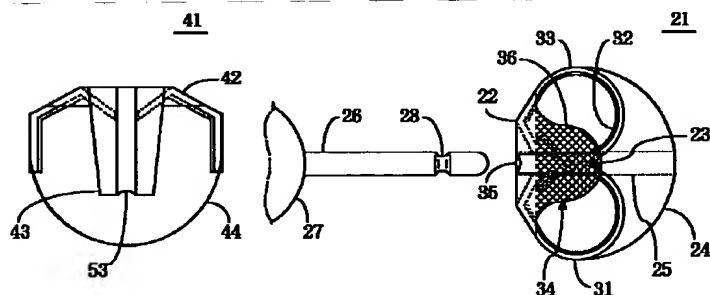
【図3】

【図4】



【図5】

【図6】



フロントページの続き

(72)発明者 竹原 久司  
山梨県甲府市中小河原町229-3

(72)発明者 長坂 雄司  
山梨県甲府市中町380-2  
Fターム(参考) 3B114 AA02 AA03 AA11 EA02